海外体験（ボランティア）学習によるホスト・ゲスト相互利益の形成に関する研究

研究の概要

現代社会において、ツーリズムは多種多様な形態へ発展しています。その方向性のひとつがボランティア・ツーリズムといわれる分野です (以下、「VT」と表記)。VT は、文字通り、ツーリストが旅先で何らかの奉仕活動をおこなう形態であり、ここでは主として海外（発展途上国）を対象としています。本研究では、そのプログラム内容や運営のあり方、および評価枠組みの開発を通じて、ツーリストと受け入れ側双方の成長・発展を促すボランティア・プログラムの構築を目指しています。

VT は、2000 年代半ばからグローバル人材育成の必要性・主体的学習の涵養等の理由から主として大学教育の中で実施されるようになりました。近年では、グローバル教育に力をいれる中学や高校でも実践されるようになっています。しかし、このような VT が現地の受け入れ社会にもたらす弊害も指摘されるようになりました。実践する側（ゲスト）と受け入れ社会（ホスト）双方にとって利益になるプログラムづくりが現在求められています。

研究の特徴

一般的に海外における VT は短期的な活動が多く、現地の文化や状況をそれほど知らなくても問題がなく、ゲストの「想い出づくり」に終始してしまいがちです。そのことが時にホスト側社会に悪影響を与えてしまうこともあります。

以上を鑑み、本研究では、以下の課題解決に貢献していきます。

①現地活動の前から後に至るまでゲストの主体的学習が促進される仕組み
②ゲストを受け入れることによるホスト側社会・個人の利益や学びが促進される仕組み
③（VT）プログラムのコンテンツ開発や運営の改善
④ VT の評価枠組み・評価基準の策定
⑤ポスト・コロナ禍における新しい VT のあり方

行政・経済界・地域と連携した取り組み例

	実践事例	時期・実践回数	カウンターパート
①	本学「海外体験学習プログラム（タイ）」	毎年 2 月 2 週間・9 回	NGO、国立大学付属校、地方小・中学校、企業
②	本学「海外体験学習プログラム（インドネシア）」	毎年 3 月 2 週間・8 回	現地大学、JICA、企業
③	課外活動　国際協力学生団体 タイ「障がい児童教育支援」 インドネシア「ノンフォーマル教育施設教育支援」	タイ　毎年 8 月 インドネシア　毎年 9 月、3 月	NGO、現地大学

研究者からのメッセージ

ポスト・コロナ禍においては、ツーリズムのあり方も変化することと思います。自然や社会への負荷をできるだけ抑えつつ、何が学べるのか、できるようになるのか、相手のメリットは何かがより問われるようになるでしょう。

研究分野　：　国際開発学、国際理解教育、ボランティア

研究者の所属部局・職位・氏名　：　和歌山大学 国際イニシアティブ基幹日本学教育研究センター・准教授・藤山一郎

本件に関するお問い合わせ：liaison@ml.wakayama-u.ac.jp